

単元の目標

1列に並んだものの数と順序との関係を、図を使って考えることができる。

単元の指導計画（本時2 / 2）

時	学習活動	評価規準
1 / 2	・ 1列に並んだものの数と順序との関係を、図を使って考える。	思 並んだものの数を簡潔な図に表し、順序や間の数について考えたり説明したりしている。 態 並んだものの数を簡潔な図に表すよさに気づき、順序や間の数について考えようとしている。
2 / 2 (本時)	・ 1列に並んだものの数とその間隔との関係を、図を使って考えることができる。	思 並んだものの数を簡潔な図に表し、間の数や間隔について考えたり説明したりしている。 態 並んだものの数を簡潔な図に表すよさに気づき、間の数や間隔について考えようとしている。

本時の指導

(1) 本時の目標

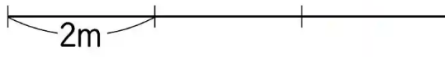
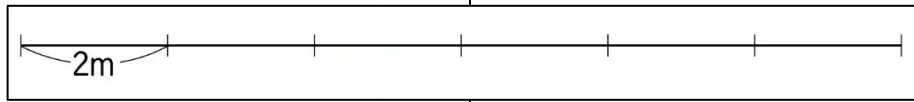
・ 1列に並んだものの数とその間隔との関係を、図を使って考えることができる。

(2) 評価基準

- ・ 並んだものの数を簡潔な図に表し、間の数や間隔について考えたり説明したりすることができたか。 **【思考力・判断力・表現力】**
- ・ 並んだものの数を簡潔な図に表すよさに気づき、間の数や間隔について考えようとする態度が見られたか。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

(3) 指導過程 ※黄色の部分・・・現職教育のねらいに迫るための手立て

過程	学習活動	指導上の留意点・手立て
導入 (5分) 一斉	1 前時の学習を振り返る。 ・ ○を使った図をかいて考えた。 ・ 間数を求めた。 2 本時の課題を理解する。 (1) 場面絵を見て、木が等間隔に植えられていることに気づく。 (2) 問題文を読み、「木の両端の長さ」を求	○前時の課題を電子黒板に映して、全体で確認する。 ○場面絵から気づいたことを自由に発表させる。その際、場面絵から答えにたどり着けないよう場面絵の一部を隠しておく。 ○「両端」とは先頭の木と最後の木を指す

	<p>める問題であることを知る。</p> <p>(3) どんな式になりそうか、見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2×7 ← 誤答 ・ 2×6 	<p>ことを伝える。</p> <p>○前時とは違い、本時は「間の長さ」を求める問題であることを確認する。</p> <p>○すぐに 2×6 という答えが出た場合は、教師が「問題文に6はないよ。」などと言い、2×7 ではないのかと、ゆさぶりをかける。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ④ 図にかいて、間の長さを考えよう。 </div>		
<p>展開 (35分)</p> <p>一斉</p>	<p>3 問題③の求め方を考える。</p> <p>(1) 線分図のかき方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使って、木が植えられている様子を線分図にかく。 	<p>○3本目が植えられた様子までを全体で確認しながら線分図にかかせ、線分図のかき方を確認する。</p>
<p>個人</p>	<p>(2) 線分図の続きを完成させ、式と答えを求める。</p>	<p>○線分図から求め方の見通しをもたせる。</p> <p>○木を8本かいて 2×7 と間違える児童もいると思われるが、ここでは指摘はせず、グループ学習で訂正していけるようにする。</p>
<p>グループ</p>	<p>(3) グループで正しい図と式を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「7本の棒が木を表しています。」 ・「木と木の間に2メートルです。」 ・「木と木の間の数は6です。」 	<p>○ 2×7 と誤答している児童から話し始めて、グループで話し合うことで間違いが訂正できるようにする。</p> <p>○誤答していた子がホワイトボードに書くように指示する。</p>
<p>一斉</p>	<p>(4) グループ発表をし、全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「木と木の間の数は6になっています。」 ・「両端の木の間の長さは、$2 \times 6 = 12$ で 12m になります。」 	<p>○ホワイトボードの線分図や式を見比べて、間違えているグループを意図的に取り上げて話し合わせる。</p> <p>○「間の数 = 木の数 - 1」であることに気づかせる。</p>
<p>個人</p>	<p>4 問題④を解く。</p>	
<p>グループ</p>	<p>(1) 線分図を使って解くことを確認する。</p>	<p>○遅れがちな児童を中心に机間指導をして、支援をする。</p>
<p>一斉</p>	<p>(2) どんな図をかいて答えを求めたか、グル</p>	<p>○グループで分からない子がいた場合、「ど</p>

	<p>一プで確認する。</p> <p>(3) 全体で数名が発表し、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人数が8人のときは、間の数が7になります。」 ・「$3 \times 7 = 21$、$21m$になります。」 	<p>ここまで分かった？」と声をかけて教え合 いをするように指導する。</p>
<p>まとめ (5分) 個人 一斉</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間の長さを求めるときも、図を使うとよくわかる。 ・間の数は、ならんでいる数よりも1小さい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>㊸ 図にかくと、間の数がいくつになるか分かる。</p> </div>	<p>○児童の言葉で、授業で分かったことをワークシートに書かせてから、全体で発表をさせる。</p>

(4) 準備・資料

教師：chromebook、電子黒板

児童：ワークシート、ホワイトボード

(5) 板書計画

